

令和5年度防府市生涯学習推進会議 会議要旨

1 開催日時 令和5年7月6日(木)午後2時から午後3時まで

2 開催場所 笑顔満開通り ルルサス文化センター 交流室1

3 出席委員 11人 ※欠席委員は5人

4 次 第

(1) 開会

(2) 教育長 あいさつ

(3) 委員長・副委員長 選出

(4) 委員長・副委員長 あいさつ

(5) 議題 ※以下、要旨。表現は簡略化しています。

ア 第3次防府市生涯学習推進計画 令和4年度事業の実施状況及び評価について

(委員長)

まずは事務局から説明をお願いします。

(事務局)

第3次防府市生涯学習推進計画 令和4年度事業の実施状況について説明。

(委員長)

何か御意見等があればお願いしたい。

(A委員)

資料2について、いくつか意見をお伝えする。

まず、記載事項を再掲する場合は再掲元と再掲先の項目Noを明記してほしい。

次に、項目No19の消費生活講座等に関する取組の今後の事業への反映について、「次年度以降、市の啓発活動等に協力する人材『消費生活スーパーサポーター』を育成する」とあるが、詳細を教えてください。

次に、項目No78の放課後子ども教室への学生の参加の促進について、高校生よりも大学生の方が参加の可能性が高いと思うので、大学生の参加を検討してほしい。

次に、項目No87のスポーツ推進委員等の指導者の研修の充実について、指導者がニュースポーツを体験し、遊び方を知る機会をもっと増やしてほしい。

最後に、家庭教育アドバイザー養成講座や「地域協育ネット」コーディネーター養成講座など、様々な養成講座が開催されているが、受講者数が増えていない。家庭教育アドバイザー養成講座は、2年間で6回前後の受講が求められ、このカリキュラムであれば子育てをしている方等は講座の修了が困難である。修了までの回数を減らしたり、初級講座を設ける等、受講のハードルを下げ、より多くの方が養成講座を受講できる環境を整備してほしい。

(事務局)

項目No19について、「消費生活スーパーサポーター」の詳細が分かり次第お伝えしたい。

項目No78について、今後、放課後子ども教室への大学生の参加を検討したい。

項目No87について、今後、指導者がニュースポーツを学ぶ機会のある場を検討したい。

家庭教育アドバイザー養成講座や「地域協育ネット」コーディネーター養成講座については県が主

催のため、機会があれば県に伝達したい。

(B委員)

資料2の項目No39の企業等との連携・協働による文化・芸術活動の支援について、「メセナ活動」とは何か。

(C委員)

企業が芸術文化活動を支援することである。これは、学校の教科書にも記載されている。

(委員長)

資料2の目標指標について、青少年科学館ソラールの入館者数(年間)の目標値を8万人(令和7年度)としているが、令和4年度の実績は3万2千人程度であり、達成は難しいのではないか。

(事務局)

平成30年度の入館者数は76,156人であり、コロナ禍前の入館者数に戻すことを目標としている。

イ 第3次防府市生涯学習推進計画 令和5年度事業の取組について

(委員長)

まずは事務局から説明をお願いします。

(事務局)

第3次防府市生涯学習推進計画 令和5年度事業の取組について説明。

(委員長)

何か御意見等があればお願いしたい。

(D委員)

ほうふ幸せます人材バンク「指導者バンク」について、近年は、人生100年時代における「リカレント教育」や「リスクリング」といった言葉が注目されており、「指導者バンク」はこれらを実践するための制度であると思う。

本市では、駅の近くにはルルサス文化センターがあり、市民が仕事帰りにこの施設で次の仕事を見据えた学習等ができるようになることが本市の生涯学習の今後の方向性の1つではないかと思う。

(事務局)

今後、ルルサス文化センターの講座関係等でもリスクリング等を検討していきたい。

(E委員)

公民館について、公民館職員は施設の管理だけではなく、来館者と一緒にセミナーに参加して楽しむ等、地域に馴染んでほしい。

(事務局)

公民館職員は、出張所業務もあり、1日でも早く仕事を覚えて地域に馴染むように努めているが、ご意見は公民館職員に伝達したい。

(6) 教育部長 あいさつ

(7) 閉会